

平成30年度 学 校 評 価 報 告

草加市立新田中学校
(平成31年 2月12日作成)

1 学校教育目標	
・豊かな心と学ぶ意欲をもち 広い世界で たくましく生きる生徒	
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
・自ら考え学ぶ意欲の向上を目指す。 ☆自ら学び【基礎学力】 ・豊かな心、美しい心の育成を目指す。 ☆心豊かに【規律ある生活】 ・心身が健康で、たくましい生徒の育成を目指す。 ☆たくましく【健康・体力】 ・中学校区の幼保小中の連携を図る。 ☆「学び」と「心」【子ども教育連携推進】	成果 ○教職員が、学校教育目標の具現化をめざし、基礎基本の徹底、学習規律の確立、生活規律の徹底に取り組み、学力向上に向けて進めていくことができた。 ○小中一貫教育を、乗り入れ授業や行事の交流を中心に進めることができた。 課題 ●新学習指導要領実施に向けて、「主体的・対話的で深い学び」について、さらに研修を深めるとともに、道徳の教科化に向けて、積極的に研修を深める。 ●不登校の生徒を少しでも解消できるように、保護者、関係機関と連携を強化していきたい。 ●地域との交流をさらに増やし、地域社会との連携の強化を図るとともに、コミュニティースクール導入に向けての研修を深める。

4 評価表 ※評価基準〔A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である〕				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○学校経営方針に沿って、各分掌が中心となって、業務を遂行できた。 ●職員が組織の中で、共通理解、共通行動の視点に立って、業務を遂行できるようにする。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○研究発表会や各種研修会への参加を通して、研鑽を深めることができた。また、ICT機器を利用する教員が増え、生徒の興味・関心を引き出す、授業の工夫改善に努めることができた。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	A	○養護教諭、安全主任を中心に、生徒の安全を第一に考えた計画を実施することができた。 ○アレルギー対応は、養護教諭を中心に、効率よく進めることができた。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	A	○教職員の情報管理やセキュリティに関する意識を高めることができた。
	⑤地域との連携・開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校評議員の活用 ・地域・校種間連携 ・PTA活動の活性化	A	○学校だよりやHP等の活用をして、速やかな情報の発信をすることができた。 ○引き取り訓練や避難所運営訓練等で、保護者や地域と連携して取り組むことができた。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の実現に向けた取組 ・教育課程の編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○小学校との合同研修会や定期的開催する中学校区の連絡会で、活発な情報交換をすることができた。 ○行事の交流や作品交流等を通して、連携を深めることができた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	- 教育課程の編成、実施 - 教育計画の作成 - 教育活動の評価 - 目標、方針の周知 - 授業時数の配当、確保	B	○可能な限り授業時数の確保に努め、効率よく教育活動を進めた。 ●各教科や各領域との連携を密にしていなければならない。
	②教科指導	- 指導計画の立案 - わかる授業づくり - 指導方法の工夫と改善 - 評価、評定の工夫 - 外部人材の活用	B	○ICT機器を利用した授業が増え、生徒の興味・関心を引き出す授業改善が見られた。 ●「主体的・対話的で深い学び」について、さらに研修を深める。
	③道徳教育	- 全体計画の作成 - 各教科との関連 - 道徳実践力の育成 - 家庭、地域社会との連携 - いのちの教育の推進	B	○学年共通の独自教材の活用が進んだ。また、校内研修での模擬授業により、指導方法を深めることができた。 ●教科化に向けた研修を、さらに深めていく必要がある。
	④特別活動	- 指導計画の立案 - 学級活動、学級経営 - 学校行事 - 生徒会活動	A	○各学年リーダーの育成に力を入れ、学校行事や生徒会活動を通して、意欲的に取り組む生徒が増えた。
	⑤「総合的な学習の時間」の指導	- 指導計画の立案 - 指導内容の充実 - 指導方法の工夫と改善 - 評価の工夫	A	○各学年とも計画に基づき、生徒の興味・関心をもとに、主体的な活動を通して、指導することができた。
	⑥生徒指導	- 組織的な生徒指導 - 問題行動への対処 - 教育相談、生徒理解 - いじめ防止対策 - 保護者、地域、諸機関との連携	A	○基本的な生活習慣が身に付き、落ち着いた行動を取れる生徒が多く、組織的な取組の効果が出ている。 ○心や家庭に悩みを抱える生徒について、相談員、関係諸機関と連携することができた。
	⑦キャリア教育	- 組織的なキャリア教育 - 指導方法の工夫と改善 - 啓発的経験の充実 - 進路情報の収集、活用 - 職場体験活動	A	○社会体験学習、上級学校訪問においては、事前の学習からまとめまで、計画的に取り組むことができ、将来の道筋を考えることができた。
	⑧特別支援教育	- 個別の指導計画、支援計画 - 指導方法の工夫と改善 - 通常学級との交流 - 諸機関との連携 - 校内支援体制の整備	B	○通常学級との交流が、十分にできた。 ●通常学級における、支援を要する生徒への指導方法を、全体で共通理解を図り、連携を深めていく必要がある。
	⑨学校図書館教育	- 指導計画、支援計画の作成 - 図書館補助員の活用 - 諸機関との連携 - 図書館の整備 - 図書館利用の工夫	A	○司書教諭、学校司書の工夫された図書室の運営により、来室者が増え、貸出冊数が増加した。また、新聞コーナーを継続し、読解力向上の一端を担っている。
	⑩情報教育	- 教育計画の作成 - 校内研修の充実 - ICT機器の積極的な活用 - 情報モラル教育の推進	B	○小学5、6年生と中学1年合同の「情報モラル教室」を実施し、携帯電話・スマートフォンの利用について考えた。 ●ICT機器も新しい機材が導入されたので、使い方についてさらに研修を深めていく必要がある。
	⑪人権教育	- 全体計画の策定 - 各教科との関連 - 人権感覚の育成 - 校内研修の充実	A	○人権教育主任を中心に、各学級において計画的に進めるとともに、作文や標語なども積極的に応募し、人権に関する意識を高めた。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色ある学校づくり	①小中を一貫した教育の推進	・中学校区の小学校との円滑な接続 ・ベアスクールとしての交流活動の充実	A	○中学校区の小学校と連携を密にし、円滑な接続を試みることで、中1ギャップの解消に努めることができた。 ○行事や作品など、充実した交流を深めることができた。
	②豊かな心、美しい心の育成	・規律ある生活の徹底 ・特別活動の充実	A	○生徒会活動による「スマイルサポーター活動」を通して、生徒が主体となっていじめの根絶に取り組んだ。 ○「礼を正す」「時を守る」など、規律ある生活を徹底することができた。
	③心身が健康でたくましい生徒の育成	・規範意識の醸成 ・健康教育、安全教育の充実	B	○保健体育や部活動等の運動を通して、体力が向上した。また、体育祭への積極的な取組には目を見張るものがあった。 ●防災学習の更なる充実を図り、生徒の防災への関心を深める。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- ・自ら学び【基礎学力】
生徒の自己評価からは、自ら考え、学ぶ意識の向上が見られた。
- ・心豊かに【規律ある生活】
礼を正す、場を清める、時を守るなどの基本的な事項については、ほとんどの生徒がしっかり取り組もうと意識している。集会等にも表れている。
- ・たくましく【健康・体力】
生徒会保健委員会を中心とした睡眠時間の確保の取組や毎日の健康観察等が活発に行われた。中学校区合同引き渡し訓練、地域と連携した避難所運営防災訓練等、小学校や地域住民と連携を図った防災の取組を行うことができた。
- ・「学び」と「心」【子ども教育連携推進】
中学校区における連携の取組をさらに充実させながら、交流活動等を通して、小中の円滑な接続が図られるよう推進していく。
- ・学校関係者評価
学校全体に関すること、行事に対する取組等、多くの面で高い評価をいただいた。課題として、地域の防災に関して、中学生と地域との関わりをどのように持たせていくか。また、中学校と若干離れている町会と中学生の関わりをどう持たせていくかが課題として御指摘を受けた。今後も、全教職員で家庭・地域と連携を図りながら、課題解決のために、計画的・組織的に対応し、取り組んでいく。

6 次年度の改善策

- ・自ら学び【基礎学力】
新学習指導要領実施に向けた、「主体的・対話的で深い学び」について、さらに研修を深める。
- ・心豊かに【規律ある生活】
行事の精選と見直しを含め、行事をとおして豊かな心を育む。
- ・たくましく【健康・体力】
防災教育、安全教育をさらに充実させ、子どもたちの健康や安全を守る取組を定着させるとともに、避難所運営防災訓練に生徒の積極的な参加を呼びかける。
- ・「学び」と「心」【子ども教育連携推進】
中学校区内の幼保小中の連携を密に図り、小学校とは授業の相互の交流を図り、連携をさらに深め、地域の小学校から中学校へ安心して学べる教育環境づくりに努める。